

TMRセンターの普及・定着

- 飼養規模の拡大や飼料調製にかかる労働力不足を背景に、近年、飼料調製を外部化する仕組みとしてTMRセンターの設立が加速。TMRセンター組織数は、平成15年の32組織から平成29年には138組織に増加。
- 成分分析に基づく、良質混合飼料の通年供給により、畜産農家の飼料調製にかかる労働力の軽減や乳量増加が期待される。また、飼料の生産・調製にかかる高度な知識等が不用となるため、新規就農者の参入も容易。
- TMRセンターの施設整備等への支援により、労働力不足への対応や国産粗飼料の生産・供給体制の構築を推進。

TMRセンター組織数の推移、地域別組織数(H29)

○TMRセンターの組織数は、平成29年には138組織に増加。北海道が半数以上を占める。

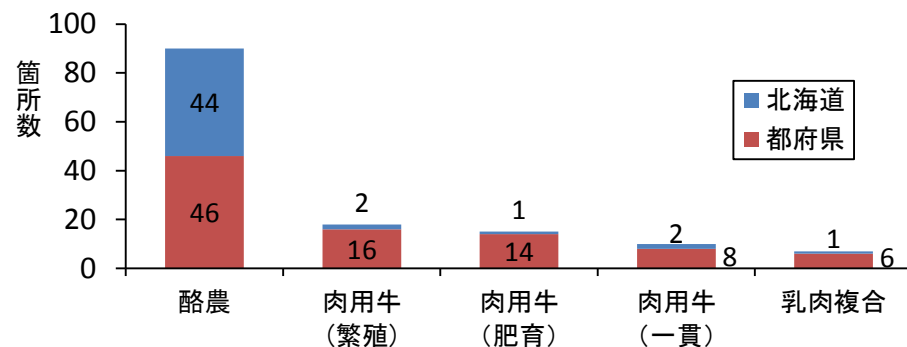
地域	H15	H20	H25	H29
全国	32	85	110	138
うち北海道	7	35	51	75

《内訳》



供給先農家の経営(H26)

○TMRセンターの9割以上が酪農に供給。都府県では北海道と比較し、肉用牛に供給するTMRセンターの割合が高い。



注)回答数:96箇所(北海道44、都府県52)、複数回答あり

【28年度補正】 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業

畜産クラスター計画に位置づけられた地域の中心的经营体(飼料生産受託組織等)が自給飼料の増産や品質の向上等を図るために必要な機械の導入、施設整備等を支援。(補助率:1/2以内)

【29年度】 強い農業づくり交付金

国産粗飼料や飼料用米の保管・調製・供給施設の整備等を支援。(補助率:1/2以内)

TMRセンターの施設・機械

